□議員名：矢田松夫

1　小野田線の利用者減少について

論点	１０年前と乗降客数が減少し続けていることについて、どのように分析されているのか。
回答	沿線の少子高齢化や人口減少、マイカー依存の高まり、コロナ禍の直撃等、複合的な要因により、現在の厳しい利用状況に置かれていると考える。

論点	昨年８月の市民アンケート結果では、運行本数を増やし、運行時刻は利用しやすいように改善を求めることが５０％上がっている。ただ単にマイカーの普及だけではないのではないか。
回答	運行本数や利便性の向上については、これまでＪＲと協議してきた。

論点	地域公共計画書に小野田線の今後の動向を踏まえ、本山地区方面の運行の効率化を図る計画があるが、本山線をバス輸送に変更し、減便、廃止する計画があるのか。
回答	本山周辺のバス路線を今後見直す必要があるが、小野田線の存廃と関係がない。廃止について考えていない。

2　なぜ、美祢線だけが存廃の議論の対象になっているのか。

論点	昨年、ＪＲから県内の赤字路線について公表され、７月豪雨災害が発生したが、全国的に災害を機に廃線へとつながり、地域住民や利用者から危機感がある。現状について答えよ。
回答	交通事業者の役割、使命あるいは責任として、まずは被災地に寄り添っていただき、速やかに復旧していただくことに尽きる。

3　維持存続について

論点	本市での被災状況は、松ヶ瀬自治会踏切付近では、土砂、木、竹とか堆積物等が線路に覆いかぶさり、湯の峠駅信号扱所の故障等、ＪＲ施設の改修工事の負担を求められたときの対応はどうするのか。
回答	基本的にはＪＲの資産であるから、責任をもって維持管理していた

	だけると思っている。

論点	美祢線の休止で、美祢市・長門市への中継基地とした厚狭駅の観光客の動向についてどのように分析しているのか。
回答	観光発信の重要な位置づけであるが、バス代行輸送により厚狭駅周辺の観光客も減少し、影響している。

4　美祢線利用促進協議会との連携と本市の位置づけについて

論点	協議会と関係する市、県との連携について本市の位置づけについての役割は何か。
回答	沿線３市や県、ＪＲ西日本等が対等な立場から、ＪＲ美祢線の利用促進に向けた各班の取組等について主体的に議論している。市単独で要請行動を否定するものではないが、機を図り必要とあれば動く。

論点	本市における小野田線・美祢線利用促進協議会の官制組織に頼るのではなく、財源も考慮しながら市民を巻き込んで対応すべきではないか。
回答	あくまでも協議会を中心に協議を進めて行きたい。新幹線厚狭駅にさくら等々の発着が可能になれば、より美祢線の利用客や活性化が図れると言うことを中心に協議会へ臨んでいきたい。